

2013年4月30日 全5頁

## Indicators Update

### 3月鉱工業生産

生産は持ち直し基調

経済調査部  
エコノミスト 橋本政彦

#### [要約]

- 2013年3月の生産指数は、前月比+0.2%となり、市場コンセンサス（同+0.4%）をわずかに下回ったものの、4ヶ月連続の上昇となった。3ヶ月移動平均で見ても4ヶ月連続の増加となっており、生産は持ち直し基調が続いている。出荷指数は前月比+0.3%と2ヶ月連続で上昇し、在庫指数が同▲0.2%と低下したことから、在庫率指数は同▲1.2%と6ヶ月連続の低下（改善）となった。
- 3月の生産を業種別に見ると、化学工業が、先月時点の計画を上回る上昇となったことが生産を押し上げた。また、低下傾向が続いていた電子部品・デバイス工業が、スマートフォン関連部材の増加により上昇に転じたこと、先月時点では生産の大幅な低下を見込んでいた情報通信機械工業が、計画に反して上昇したことが生産の押し上げに寄与した。一方、生産が低下した業種に関して見ると、輸送機械工業の低下による寄与が大きかったが、減産自体は先月時点で見込まれており、概ね想定内の内容であった。
- 製造工業生産予測調査によると、2013年4月の生産計画は前月比+0.8%、5月は同▲0.3%となっており、生産は振れを伴いながらも緩やかな増加基調が続くと見込んでいる。生産が今後安定的に増加するかどうかは、輸出数量の増加がカギとなる。輸出数量にもこのところ下げ止まりの兆しがみられているが、海外経済の回復や、円安による価格競争力の改善といった外部環境の改善に鑑みると、今後は増加に向かう公算が大きい。輸出の増加に牽引される形で、生産は緩やかな増加傾向が続く見通しである。

鉱工業生産の概況(季節調整済み前月比、%)

	2012年					2013年		
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
鉱工業生産	▲1.6	▲4.1	1.6	▲1.4	2.4	0.3	0.6	0.2
コンセンサス								0.4
DIR予想								0.3
生産者出荷	0.2	▲4.3	▲0.1	▲0.8	4.0	▲0.3	1.4	0.3
生産者在庫	▲1.6	▲0.9	▲0.1	▲1.2	▲1.2	▲0.4	▲2.0	▲0.2
生産者在庫率	▲2.3	4.2	▲2.1	▲0.3	▲0.6	▲3.2	▲1.1	▲1.2

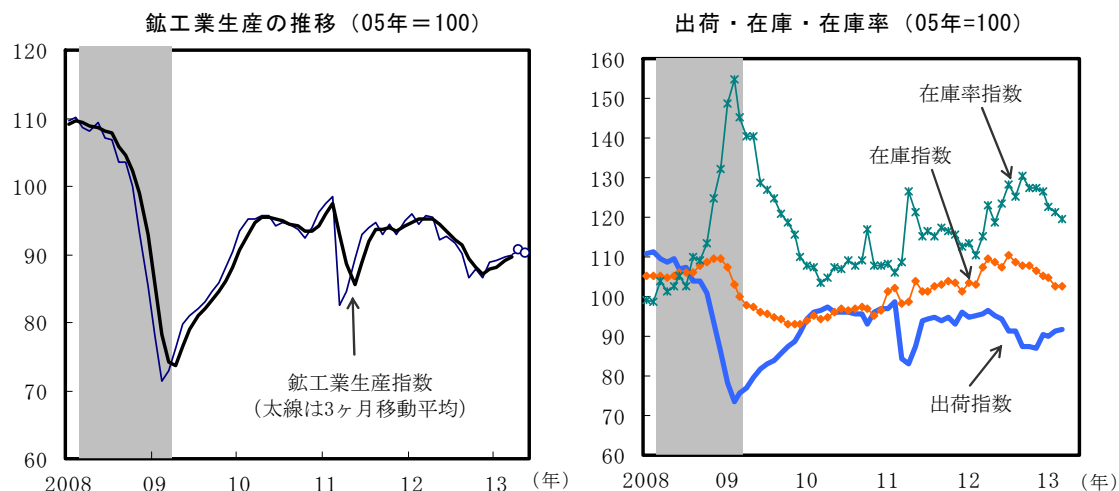
(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 経済産業省、Bloombergより大和総研作成

## 生産指数は4ヶ月連続の増加

2013年3月の生産指数は、前月比+0.2%となり、市場コンセンサス（同+0.4%）をわずかに下回ったものの、4ヶ月連続の上昇となった。3ヶ月移動平均で見ても4ヶ月連続の増加となっており、生産は持ち直し基調が続いている。出荷指数は前月比+0.3%と2ヶ月連続で上昇し、在庫指数が同▲0.2%と低下したことから、在庫率指数は同▲1.2%と6ヶ月連続の低下（改善）となった。

### 生産・出荷・在庫の推移（季節調整値）



(注1) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。

(注2) シェードは景気後退期。

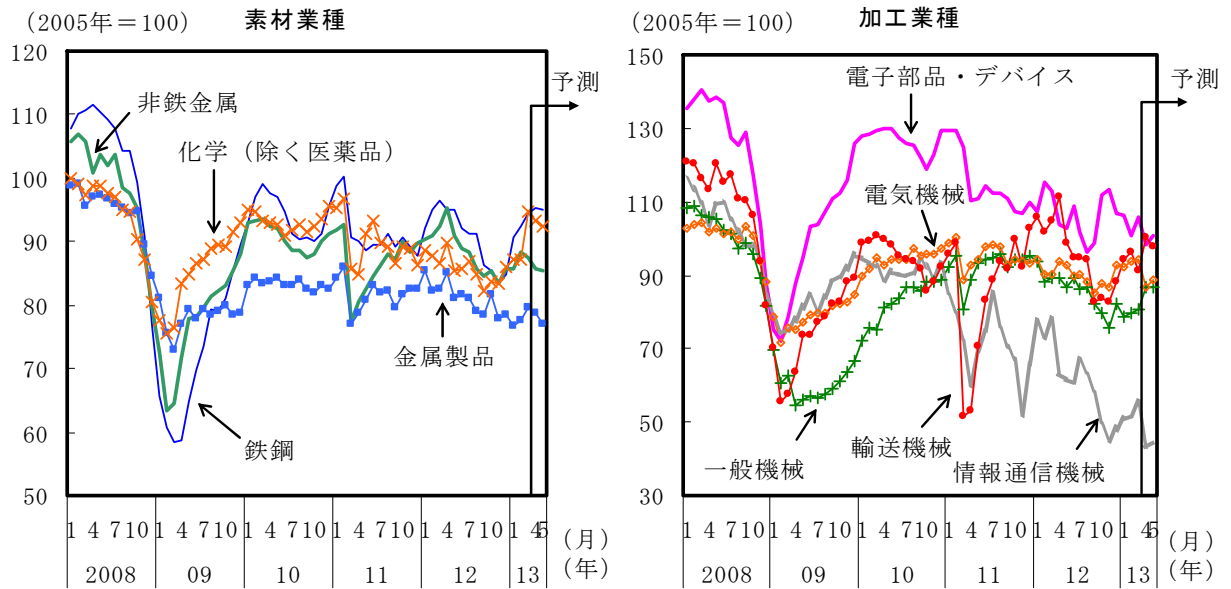
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 3月は化学工業、電子部品・デバイス工業、情報通信機械工業が押し上げ

3月の生産を業種別に見ると、化学工業（前月比+5.3%）が、先月時点の計画を上回る上昇となったことが生産を押し上げた。また、低下傾向が続いていた電子部品・デバイス工業（同+4.7%）が、「アクティブ型液晶素子（中・小型）」、「モス型半導体集積回路（メモリ）」といったスマートフォン関連部材の増加により上昇に転じたこと、先月時点では生産の大幅な低下を見込んでいた情報通信機械工業（同+7.9%）が、「外部記憶装置」、「液晶テレビ」等の増加によって、計画に反して上昇したことが生産の押し上げに寄与した。一方、生産が低下した業種に関して見ると、輸送機械工業（同▲5.0%）の低下による寄与が大きかったが、減産自体は先月時点で見込まれており、概ね想定内の内容であった。

製造工業生産予測調査によると、2013年4月の生産計画は前月比+0.8%、5月は同▲0.3%となっており、生産は振れを伴いながらも緩やかな増加基調が続くと見込んでいる。業種別に見ると、非鉄金属工業、金属製品工業、化学工業に関しては4月、5月ともに減産を見込んでおり、素材業種は全般的に慎重な生産計画となっている。加工組立業種に関して見ると、一般機械工業、輸送機械工業が、4月に大幅な増産を見込んでおり、生産全体を牽引する見通し。一方、電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業は4月に生産が大きく低下する見通しとなっているが、5月には下げ止まる計画となっている。

主要業種の生産推移

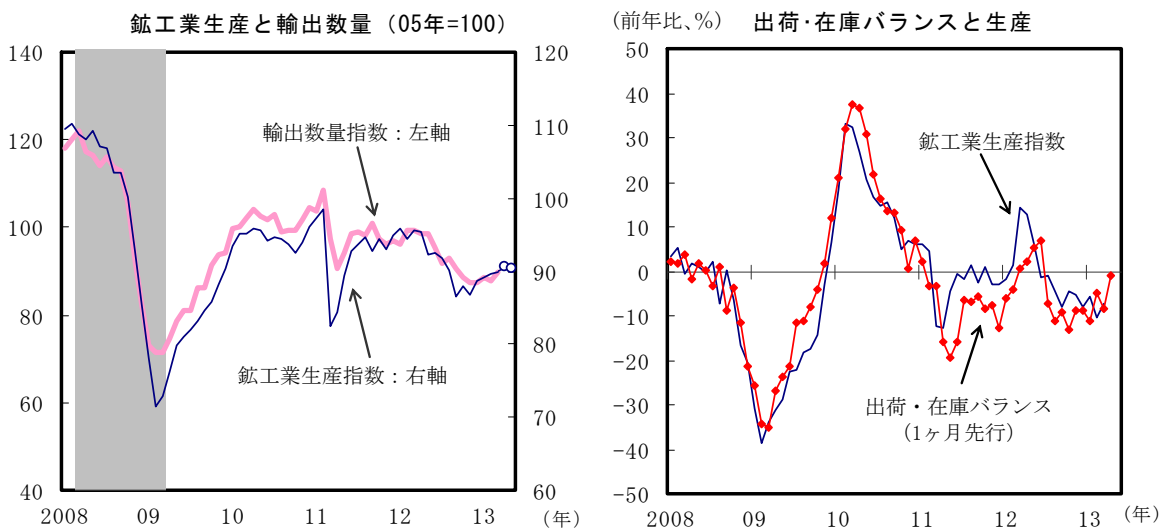


(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。  
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成

生産は輸出の増加に牽引されて増加傾向が続く見通し

生産は持ち直しつつあるが、今後安定的に増加するかどうかは、輸出数量の増加がカギとなる。輸出数量にもこのところ下げ止まりの兆しがみられているが、海外経済の回復や、円安による価格競争力の改善といった外部環境の改善に鑑みると、今後は増加に向かう公算が大きい。また、出荷在庫バランスに改善の動きが見られるように、在庫調整による生産の下押し圧力は徐々に解消しつつある。輸出の増加に牽引される形で、生産は緩やかな増加傾向が続く見通しである。

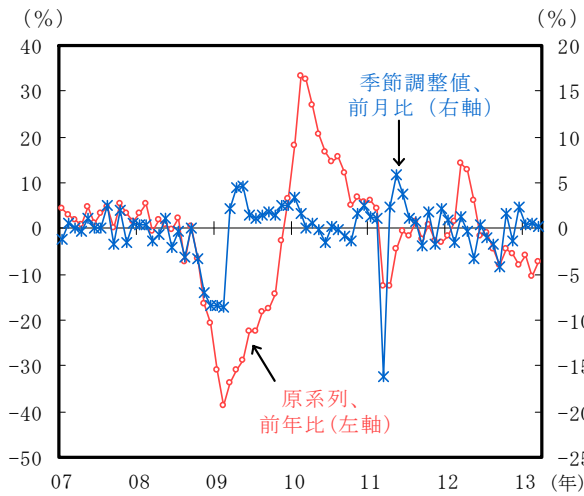
輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



(注1) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。  
 (注2) シェードは景気後退期。  
 (出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

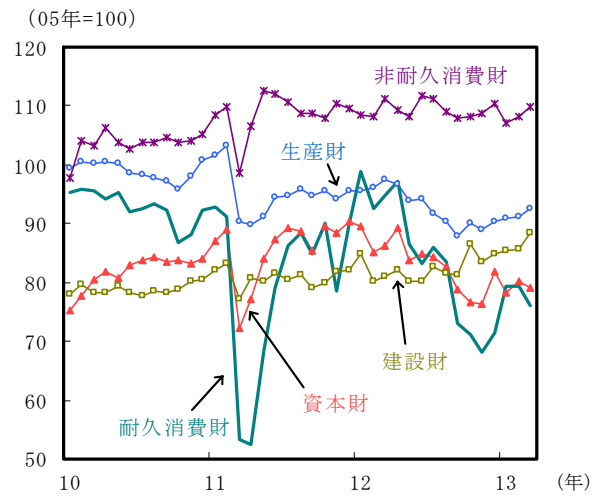
**概況**

**鉱工業生産指数の変化率**

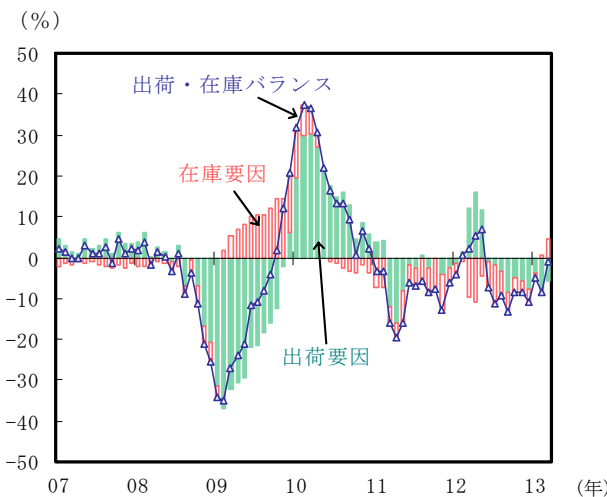


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

**財別の生産指数(季節調整値)**

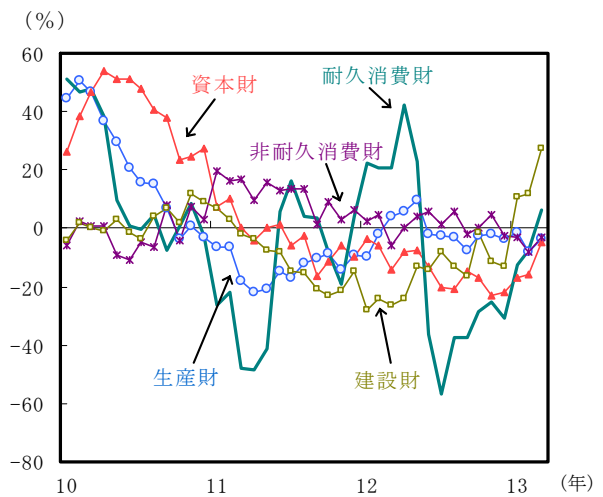


**鉱工業生産指数の出荷・在庫バランス**

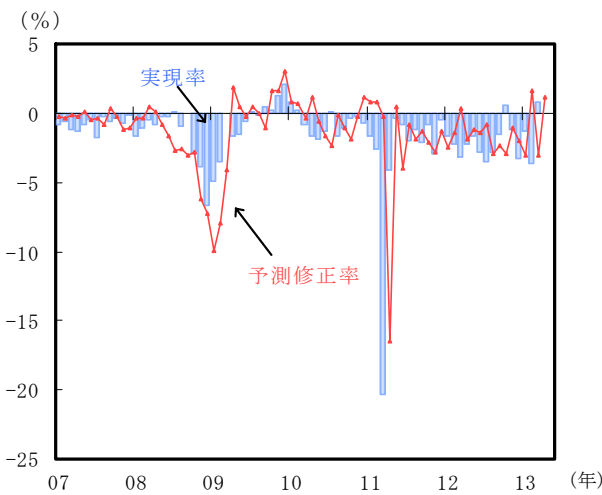


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

**財別の出荷・在庫バランス**

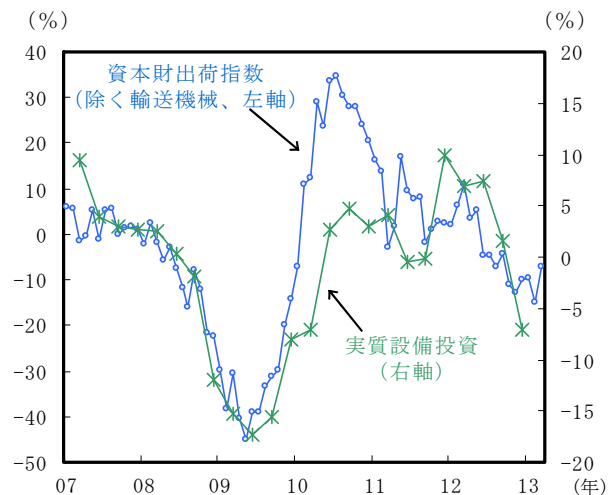


**予測修正率と実現率**



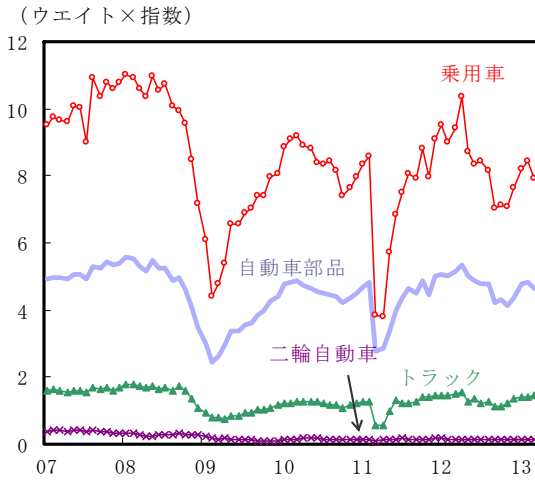
(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

**資本財出荷[除く輸送機械]と設備投資(前年比)**

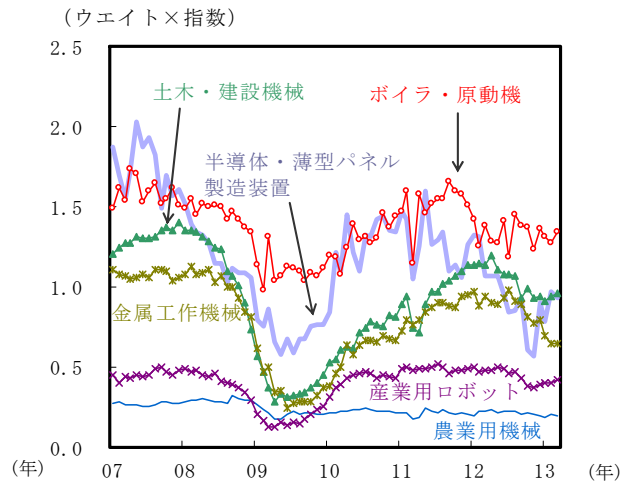


主要産業の生産動向(季節調整値)

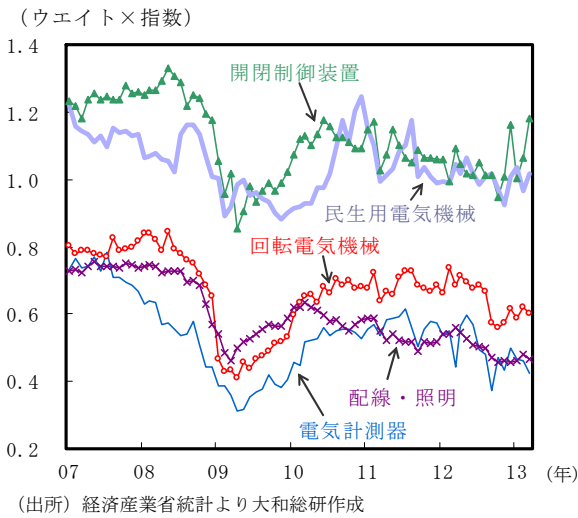
輸送機械



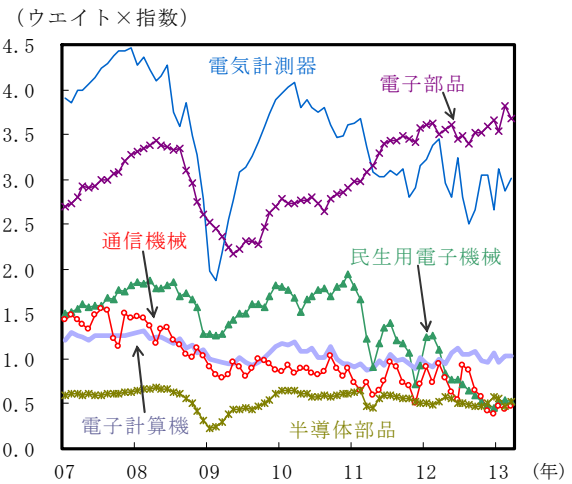
一般機械



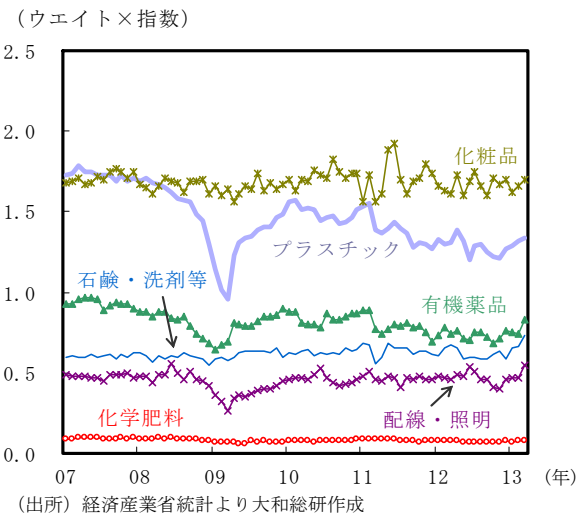
電気機械



電子部品・デバイス・情報通信



化学



鉄鋼・非鉄・金属

